

【草花の部屋】

アロエ(ススキノキ科アロエ属 Aloe)

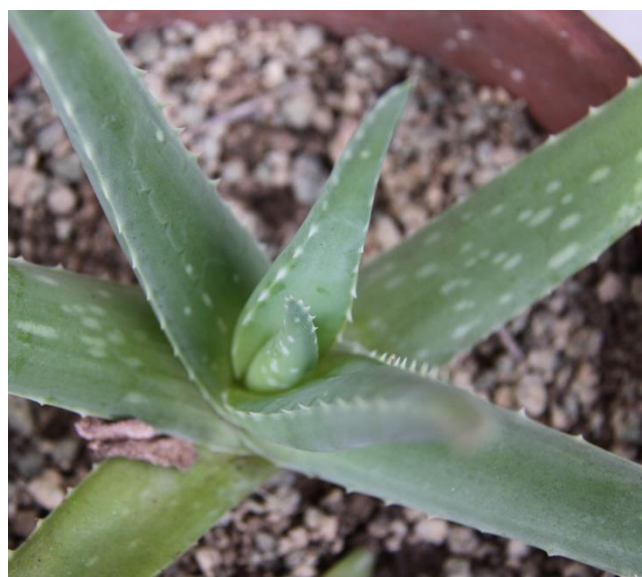
和名：アロエ **別名**：蘆薈（ロカイ）、医者いらず **英名**：Aloe

キジカクシ目 多年草 **原産地**：南アフリカ、マダガスカル

花言葉：健康、信頼、万能 **花の色**：赤、橙、黄



←↓写真-1、2 アロエ・ベラ
撮影日：2018年3月8日
撮影場所：M邸(大和郡山市)にて
撮影者：Mさん



←↓写真-3、4 キダチアロエと花
撮影日：2015年6月12日
撮影場所：T邸(倉敷市)にて
撮影者：Mさん





←↑写真-5、6 アロエ・ノビリス
(不夜城)

撮影日：2018年3月8日

撮影場所：M邸(大和郡山市)にて

撮影者：Mさん

アロエ(蘭:Aloë)はアロエ属の多肉植物の総称で、500種以上が知られているそうです。

日本には鎌倉時代に伝来し、現在はキダチアロエ (*Aloe arborescens*) が九州、瀬戸内海、伊豆半島、房総半島などで帰化しているそうです。流通しているものとしてはキダチアロエの他にアロエ・ベラが多く、その他アロエ・サボナリア、アロエ・ノビリス(不夜城)やなど多くの品種が食用のほか観賞用として栽培されているそうです。

アロエ属の科は分類体系によって変遷しており、APG体系の第3版ではスキノキ科とされていますが、過去には、新エングラ体系ではユリ科、クロンキスト体系ではアロエ科、APG体系ではツルボラン科に分類されたこともあり、これらで分類されている書籍があります。

<ちょっと一言>

- * キダチアロエ (*Aloe arborescens*) : 「木立ち」の名の通り茎が伸びて立ち上がり、成長につれ枝は多数に分かれる。暖地では戸外でも育ち冬に赤橙色の花をつける。葉の外皮は苦味強いが、葉内部のゼリー質はアロエ・ベラと変わらず苦味はない。ワシントン条約によって輸出入は制限されているそうです。
- * アロエ・ベラ (*Aloe vera*) : 主に食用として栽培され、葉の外皮を剥いた葉肉(海綿状組織と柵状組織の部分)が使用されています。ほぼ全種がワシントン条約で保護されるアロエ属にあって唯

一栽培種として例外になっているそうです。花は黄色で、葉は長く株の中心部の葉が成長し、外側の葉は成長に伴い枯死し、寒さには弱い。食用ではヨーグルトに入れるほか、日本では刺身などで・・・。

- * 薬効：500 種以上があるとされるアロエですが、観賞用のものにも多くの種類があります。どのアロエでも薬効を期待できるわけでは無いそうです。

日本薬局方でいう「アロエ」とは、アロエ・フェロックス(A. ferox、ケープ・アロエともいう)と、アロエ・アフリカーナ(A. Africana)、またはアロエ・スピカータ(A. spicate)の葉の汁を濃縮乾燥させたものだそうです。なお、キダチアロエ、ケープ・アロエ以外の、観葉植物として出回っているほとんどのアロエには、薬効となる成分は含まれていないそうです。

キダチアロエは、昔から「医者いらず」といわれてきたもので、葉肉の内服で健胃効果や、含有するバルバロインの下剤効果で便秘に効果があるとされていますが、体質によっては胃炎などを起こす場合があるそうです。また外用として傷や火傷に用いられる場合もあることは耳にしますが、逆に悪化させた例も報告されているそうで、要注意です。